

第90期 中間報告書

平成25年4月1日 ▶ 平成25年9月30日



Contents

- P1 株主の皆様へ
- P3 セグメント別概況（連結）
- P4 企業理念とグループ中期経営計画の概要
- P5 トピックス
- P7 連結財務諸表
- P9 会社情報・株式情報



平素は格別のご高配を賜りありがたく厚く御礼申しあげます。

さて、当社グループはこの9月30日をもちまして、第90期事業年度の上半期を終了いたしましたので、ここに業績の概況をご報告申しあげます。

当上半期の当社グループを取り巻く経営環境は、海外では中国の経済成長が鈍化するなど不安要素はあったものの、日銀の金融緩和策や日本政府の経済政策により昨年に比べてドル高円安・株高となり景況感は改善しました。また、公共投資が推進されたことにより、実体経済も持ち直しの兆しが見えてまいりました。

このような景況の下で当社グループといたしましては、営業部門と技術部門が一体となりマーケティングや新規受注の推進に取り組むなど営業力の強化を実施し、政府施策によって増加するビジネスチャンスの取り込みや、海外拠点と連携した営業活動による海外需要の取り込みに重点を置き活動いたしました。

その結果、企業集団の業績（連結業績）につきましては、受注高は363億11百万円（前年同期比3.0%減）、売上高は312億55百万円（同0.7%減）となりました。損益面につきましては、

経常損失は前年同期比1億59百万円改善し1億93百万円となり、四半期純損失は前年同期比1億73百万円改善し1億77百万円となりました。

なお、当社グループの事業構造により、公共・社会インフラ等の設備関連機器の売上が下半期に集中する傾向があるため、上半期は通期の業績に対して相対的に低い水準にとどまっております。

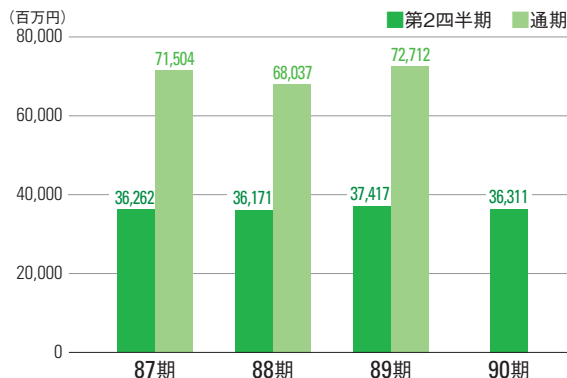
配当は継続的かつ安定的に実施していくことを基本としておりますが、中間配当につきましては、前述の事業構造及び当社の財務体質を勘案し、実施を見送らせていただきました。株主の皆様には誠に申し訳ない次第でございますが、何卒ご了承を賜りますようお願い申しあげます。



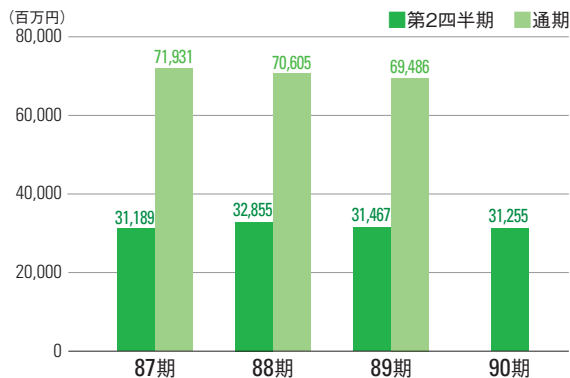
取締役社長

武藤昌三

受注高



売上高



今後の当社グループを取り巻く経営環境は、国内は、輸出が持ち直し、投資の増加傾向が続くことから景気回復の動きが確かなものとなることや消費増税による駆け込み需要が期待されます。ただし、東南アジアの成長の鈍化など海外経済の動向によっては景気が下押しされるリスクがあります。

当下半期の当社グループの取組といたしましては、国内は引き続き政府施策によって増加するビジネスチャンスの取り込みと、海外拠点を活用した海外需要の取り込みに重点を置き活動することとし、あわせてこれらの活動を充実させるために新市場開拓や情報収集のための専任担当者やビジネスチャンスの探索を専門に行うためのプロジェクトを設置するなどマーケティングの強化を図ってまいります。また、工場部門を中心とした要員配置の最適化により収益構造の改善を図ってまいります。

また、当社は、5年後の2017年に創業100周年という節目を迎えます。今後、企業価値とその源泉となる競争力をより高めるために、グループ内すべての従業員が共通の心の拠り所を有することができるよう、創業以来受け継がれてきた価値観、精

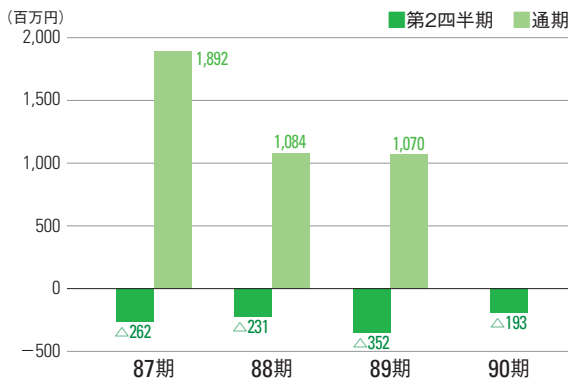
神を明文化した「企業理念」を制定いたしました。この「企業理念」に則り、2017年度を最終年度とする5ヶ年のグループ中期経営計画「BRIDGE 100」を策定し、取り組むことといたしました。本グループ中期経営計画は、長い歴史の中で培ってきた幅広い技術・顧客基盤を活かし、変化する時代に対応した開発型企业へ転換し、新たな成長を実現するための戦略を軸としております。「企業理念」及びグループ中期経営計画「BRIDGE 100」の概要は、4ページに記載しております。

今後、さらに企業価値を高め、成長し続ける企業グループとして株主の皆様、顧客の皆様から評価していただけるよう、引き続きグループを挙げて努力を重ねてまいります。

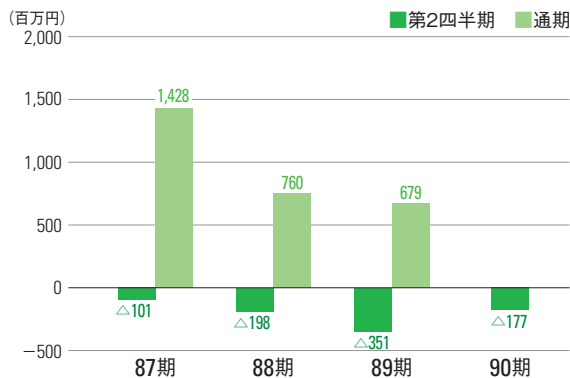
株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年11月

経常利益



四半期(当期)純利益

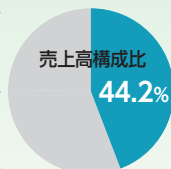


セグメント別概況(連結) Overview by Segment

モーション機器事業

受注高 **146億 95百万円**
(前年同期比 17.8%減)

売上高 **138億 7百万円**
(前年同期比 4.9%減)



受注高は、大型搬送システム部門において需要の増加がありました。航空宇宙部門では大口受注があった前年度からは航空機用電装品が大幅に減少し、プリンタ部門においても業務用プリンタの不振により大幅に減少いたしました。その結果、事業全体としては、前年同期に比べて31億75百万円減少となりました。

売上高は、プリンタ部門の受注が減少したことなどにより、

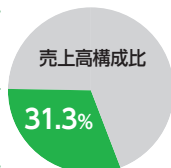
事業全体としては、前年同期に比べて7億17百万円減少いたしました。

開発面では、モーションコントロール機器部門において、鉄道車両の車軸に装着される従来の速度センサに温度検知機能を付加し、重大事故の防止に貢献する複合センサを開発いたしました。本製品は、新たに付加した温度センサが異常な摩擦による車軸近辺の温度上昇を検知した場合に信号を発信します。これにより、事前に車両を停止させて重大事故を未然に防止し、鉄道運行の安全性の向上に寄与いたします。さらに従来の速度センサと同じ形状のまま機能の追加を実現しましたので、交換を容易に行うことができます。まずは国内向けに本製品への置き換えを提案しつつ、鉄道の安全意識が高まっている海外に展開することも視野に入れて販売活動を推し進めてまいります。

パワーエレクトロニクス機器事業

受注高 **120億 14百万円**
(前年同期比 5.7%増)

売上高 **97億 84百万円**
(前年同期比 10.2%減)



受注高は、自動車試験装置部門で減少となり、クリーン搬送機器部門は高水準で推移いたしました。好調であった前年度を上回るには至りませんでした。一方、インフラシステム部門は重点活動が奏功し、官公庁向け電気設備などが大幅に増加いたしました。また、振動機部門も大型案件を獲得したことにより大幅に増加いたしました。その結果、事業全体としては、前年同期に比べて6億53百万円増加いたしました。

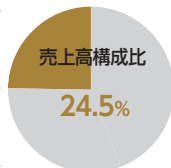
しかしながら売上高は、当上半期の期首の受注残高が低水準であったことにより、振動機部門やインフラシステム部門（官公庁向け電気設備など）が減少となり、事業全体としては、前年同期に比べて11億10百万円減少いたしました。

開発面では、自動車試験装置部門において、高電圧対応のバッテリーシミュレータを開発いたしました。バッテリーシミュレータとは、データを入力することによりバッテリーと同等のふるまいができる装置であり、例えば、電気自動車・ハイブリッド自動車用インバータを試験する際に組み合わせられるバッテリーの代わりとして使用します。これまでバッテリーシミュレータの最大出力電圧は650Vと750Vの2種類のメニューがありましたが、1000V級の高電圧に対応できるシリーズを開発したことにより、顧客のより広いニーズに対応することが可能となりました。

サポート&エンジニアリング事業

受注高 **96億 1百万円**
(前年同期比 17.3%増)

売上高 **76億 63百万円**
(前年同期比 26.7%増)



当社全般に関わり、当社の業務及び当社事業に付随するサービスやエンジニアリング業務を主たる事業とする子会社をサポート&エンジニアリング事業としており、半導体搬送システムの設置工事等が好調であったことにより、前年同期に比べて受注高は14億16百万円増加し、売上高は16億15百万円増加いたしました。

企業理念

「一歩先を行く技術」
「地球を大切に作る心」
「思いやりのある行動」

私たちはこの3つを大切に
人から宇宙まで
豊かな暮らしと社会の発展に貢献します。

グループ中期経営計画「BRIDGE 100」

●ビジョン

～“Motion & Energy Control” 技術でグローバルに成長～

当社グループにおいて培ってきた“Motion & Energy Control” 技術で、ASEAN・中国の経済成長に伴う産業設備投資需要にマッチした製品の投入と、先進国成熟社会におけるエネルギー効率化の加速に対応したソリューションの提供により、当社グループの収益基盤を確立し、グローバルな成長を目指します。

●基本方針

2017年に迎える創業100周年に向けて、以下の基本方針のもと、本グループ中期経営計画の目標を達成し、企業価値の向上を実現します。

①中核事業の拡大

4つの中核事業（『航空宇宙事業』、『モーションコントロール機器事業』、『自動車試験装置事業』、『クリーン搬送機器事業』）を拡大させるべく開発・設備投資、要員を重点的に配分し、事業収益を向上させます。

②グローバル事業の拡大

東南アジア・中国市場のニーズをつかみ、これまで整備を進めてきたタイ・中国の現地法人を中心にグローバル事業を拡大します。

③新分野への挑戦

“Motion & Energy Control” 技術と“計測・制御” 技術により、再生医療関連産業の成長、福祉の省力化ニーズが期待される「医療・福祉」分野、食の安全・安定供給への期待が高まる「農業」分野での事業化に挑戦します。

④グループ経営基盤整備

事業拡大、グローバル化を進めるにあたり必要な、開発・技術力の強化、生産の最適化、人材の育成、及び迅速な意思決定、効率的な業務遂行を支える基盤の整備を行います。

当社製電動アクチュエータシステムを搭載したイプシロンロケットの試験機が打ち上げ成功

去る9月14日に高性能・低コストの両立を目指し開発された国産の小型ロケット「イプシロン」試験機の打ち上げが、無事成功しました。

このイプシロンロケットには当社の電動アクチュエータシステムが採用されております。

本製品は、噴射ノズルに取り付けられており、ロケット本体からの指令を受けて伸縮することで噴射ノズルの向きを変え、ロケットの飛行方向を制御します。

電動アクチュエータシステムは、従来の油圧式アクチュエータシステムに比べて油圧配管が不要になることでロケットの内部構造を単純化でき、また配管



電動アクチュエータシステム

や油の洗浄作業が不要になるため、ロケットの製造費用及びメンテナンス費用を大幅に削減することができます。

当社は、国内唯一のロケット用電動アクチュエータシステムのメーカーであり、今回のイプシロンロケット以外にも国産基幹ロケットであるH-IIA/Bロケットにすでに採用されております。

現在、航空機やロケットは低コスト及び環境負荷の低減を目的に、より一層の電動化が進められていることから、当社はこれまでに培った技術を活かし新製品の開発に取り組み、積極的に新規受注の拡大を図ってまいります。



イプシロンロケット 提供：JAXA

タイのICタグ製造・販売会社に出資

当社は、昨年よりICタグ事業に本格参入しておりますが、さらなる事業拡大を図るため、このたびタイのSS RFID社の株式を25%取得いたしました。

SS RFID社は、タイの電子機器受託製造大手であるStars Microelectronics (Thailand) 社が設立したICタグ製造・販売会社で、親会社であるStars社は、優れた量産技術により半導体業界において豊富な実績を有しております。当社はそのノウハウを共有するSS RFID社へ、当社が開発した「世界最速のICタグ用インレイ製造装置」を納入してお



ICタグ用インレイ製造装置



インレイ

り、今回の出資により同社との関係を一層強固なものとしたしました。

ICタグはバーコードに代わるものとして、流通・小売業界を中心に広く普及することが見込まれており、海外でもすでに年間数十億個のICタグが使用されております。国内でも普及に向けた動きが加速しているなど、世界的な市場規模はさらに大きくなることが期待されます。

今後、当社の技術開発力とSS RFID社の量産技術力、双方の持つ世界をまたぐ販売ネットワークの融合により、グローバル競争力に優れたインレイを生産・販売し、ICタグ事業の拡大を推し進めてまいります。

※ICタグ……商品の管理情報などを記憶したICチップをタグに埋め込み、その記憶された情報を電波によって非接触で読み取ることができる情報媒体です。

インレイ……インレットとも呼ばれ、専用のシートにICチップを実装したものであり、ICタグを作る部品となるものです。

エコに貢献 小規模スマートグリッドシステム「ナチュエネ®」

当社は、産業車両の電動化や省エネ製品の創出など、エコへの取組を強化しております。なかでも、風力・水力・太陽光など複数の再生可能エネルギーを利用して発電し、その電力を蓄電、あるいは事務所等に供給することが可能な小規模スマートグリッドシステム「ナチュエネ®」は、長年培った当社の制御技術を大いに活かしたエコ製品です。

ナチュエネ®を開発して以降、当社の豊橋製作所では現在も継続して実証実験を行っております。これまで600を超える企業・団体等から1,200人以上の見学者が来訪され、多くの引き合いをいただくとともに、受注獲得に向けた活動にも注力しております。最近では、環境負荷低減等を目的としてスマートキャンパス化に取り組む大学なども増加しているなか、その計画の実現に向けて本製品が採用されたケースもあり、エコ社会への貢献を目指す当社の取組が徐々に実を結び始めております。

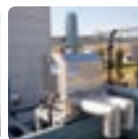
ナチュエネ®実証実験設備



監視室



風力発電



水力発電



太陽光発電

新入社員研修で2つの世界記録を樹立

当社では、「チャレンジ精神」、「コミュニケーション力」、「自分達のでやり遂げる（気づく）」をコンセプトに掲げ、特色のある様々な新入社員研修を行っております。特に近年では、会社方針の重点課題として全社を挙げてグローバル事業拡大に取り組んでいることもあり、世界と勝負するスピリッツを新入社員にも目覚めさせるために、「GUINNESS WORLD RECORDSチームチャレンジ研修」と題したギネス世界記録™への挑戦を研修プログラムに取り入れました。



「3分間でプラスチック製の組み立てブロックを使って作った最も長い橋のスパン(チーム)」に挑戦。従来の世界記録を5cm上回る1m46cmの橋を作ることになり、ギネス世界記録™に認定。

今回は、本年入社した新入社員が8チームに分かれ、この挑戦に向けて他の研修プログラムと並行しながら練習を積み重ねて、本番を迎えました。当日は各チームが様々な世界記録にチャレンジし、その結果、公式認定員により2つのギネス世界記録™が認定されました。

この取組を通じて、参加した新入社員は大きな自信を得ることができ、初挑戦にして多大な成果を収めることができました。当社は今後もあらゆる研修・教育を積極的に行い、世界に通用する人材の育成を進めてまいります。



「1分間で最も多くのドミノを倒した数(チーム)」に挑戦。従来の世界記録を115枚も上回る260枚のドミノを倒すことに成功し、ギネス世界記録™に認定。

※ギネス世界記録™はギネスワールドレコーズリミテッドの登録商標です。

連結貸借対照表 (平成25年9月30日現在)

(単位：百万円)

資産の部	
流動資産	44,788
現金及び預金	7,222
受取手形及び売掛金	17,801
商品及び製品	1,189
仕掛品	11,046
原材料及び貯蔵品	5,219
その他	2,329
貸倒引当金	△ 20
固定資産	36,758
有形固定資産	28,880
建物及び構築物(純額)	9,664
土地	14,567
その他 (純額)	4,649
無形固定資産	175
投資その他の資産	7,701
投資有価証券	5,519
前払年金費用	472
その他	1,769
貸倒引当金	△60
資産合計	81,546

負債の部	
流動負債	41,243
支払手形及び買掛金	11,995
短期借入金	21,127
未払法人税等	106
受注損失引当金	133
その他	7,881
固定負債	14,766
長期借入金	10,314
退職給付引当金	727
役員退職慰労引当金	52
環境対策引当金	317
その他	3,355
負債合計	56,010
純資産の部	
株主資本	20,376
資本金	10,156
資本剰余金	452
利益剰余金	9,824
自己株式	△57
その他の包括利益累計額	5,159
その他有価証券評価差額金	1,324
繰延ヘッジ損益	3
土地再評価差額金	3,639
為替換算調整勘定	191
純資産合計	25,536
負債純資産合計	81,546

連結損益計算書 (平成25年4月 1日より 平成25年9月30日まで)

(単位: 百万円)

売上高	31,255
売上原価	24,637
売上総利益	6,617
販売費及び一般管理費	6,599
営業利益	17
営業外収益	110
受取利息	1
受取配当金	54
その他	53
営業外費用	321
支払利息	186
為替差損	67
その他	67
経常損失(△)	△193
税金等調整前四半期純損失(△)	△193
法人税等	△15
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△177
四半期純損失(△)	△177

連結キャッシュ・フロー計算書 (平成25年4月 1日より 平成25年9月30日まで)

(単位: 百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	2,660
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,168
財務活動によるキャッシュ・フロー	△647
現金及び現金同等物に係る換算差額	48
現金及び現金同等物の増減額	893
現金及び現金同等物の期首残高	5,706
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	592
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,192

▶ 財務情報の詳細は、
当社ホームページIRサイトをご覧ください。



<http://www.sinfo-t.jp>

シンフォニアテクノロジー

検索

会社概要

会社名	シンフォニアテクノロジー株式会社
設立	1949年8月(昭和24年)
創業	1917年5月(大正6年)
資本金	101億5,696万円
従業員	3,646名(連結)
本社所在地	〒105-8564 東京都港区芝大門1-1-30 芝NBFタワー

株式の状況

発行可能株式総数 580,000,000株

発行済株式の総数 148,726,625株(自己株式218,986株を除く)

株主数 18,116名

大株主(上位10名)

株主名	持株数	出資比率
	千株	%
日本マスタートラスト信託銀行(株) 退職給付信託口(株神戸製鋼所)	29,483	19.82
ダイキン工業(株)	5,085	3.42
大日本印刷(株)	3,664	2.46
シンフォニアテクノロジー従業員持株会	3,589	2.41
シンフォニアテクノロジー取引先持株会	2,948	1.98
ナブテスコ(株)	2,309	1.55
あいおいニッセイ同和損害保険(株)	2,256	1.52
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	2,169	1.46
神鋼商事(株)	2,000	1.34
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,709	1.15

(注) 1. 日本マスタートラスト信託銀行(株)退職給付信託口(株神戸製鋼所)の持株数29,483千株は(株神戸製鋼所)から同信託銀行へ信託設定された信託財産です。信託約款上、当該株式の議決権の行使についての指図権限は(株神戸製鋼所)が保有しております。

2. 出資比率は自己株式(218,986株)を控除して計算しております。

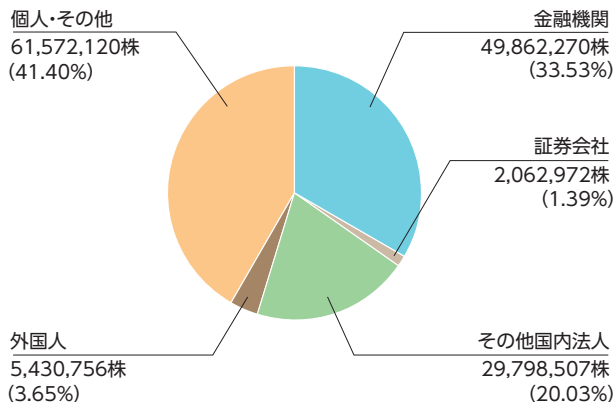
主要な営業所及び工場

支社	大阪、名古屋
支店	九州(福岡)
営業所	東北(仙台)、新潟、北陸(富山)、静岡、三重(伊勢)、四国(高松)、中国(広島)
工場	伊勢製作所、豊橋製作所、鳥羽工場

主要な子会社の本社所在地

シンフォニア商事(伊勢)
 (株)S&Sエンジニアリング(東京)
 シンフォニアエンジニアリング(株)(伊勢、東京)
 シンフォニアマイクロテック(株)(明石)
 (株)セルテクノ(伊勢)
 (株)大崎電業社(東京)
 (株)アイ・シー・エス(伊勢)
 シンフォニアテクノロジー(タイ)(株)(タイ王国・サムットプラカーン)
 達機(香港)有限公司(中華人民共和国・香港)
 達機機電(東莞)有限公司(中華人民共和国・東莞)

所有者別株式分布状況



役員

取締役及び監査役

代表取締役社長	武 藤 昌 三
代表取締役副社長	一 木 春 生
取締役	古 谷 浩 三
取締役	大 森 浩 誠
取締役	斉 藤 文 則
取締役	小 原 孝 秀
取締役	常 光 茂 久
取締役（非常勤）	渡 辺 壯 嘉
常勤監査役	廣 田 邦 彦
常勤監査役	百 家 俊 次
監査役（非常勤）	野 本 俊 輔
監査役（非常勤）	小 林 義 行

執行役員

※専務執行役員	古 谷 浩 三
※常務執行役員	大 森 浩 誠
※常務執行役員	斉 藤 文 則
※常務執行役員	小 原 孝 秀
※常務執行役員	常 光 茂 久
執行役員	青 田 勝 夫
執行役員	松 岡 孝 夫
執行役員	高 橋 芳 明
執行役員	平 野 新 一
執行役員	川 久 伸 友
執行役員	鈴 木 康 友
執行役員	仲 木 眞 利
執行役員	三 板 木 垣 夫
執行役員	河 村 博 人

- (注) 1. 取締役のうち渡辺壯嘉は社外取締役であり、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。
2. 監査役のうち廣田邦彦、野本俊輔及び小林義行は社外監査役であり、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。
3. 上記※印の者は、取締役を兼務しております。

単元未満株式(1株~999株)買増及び買取請求のご案内

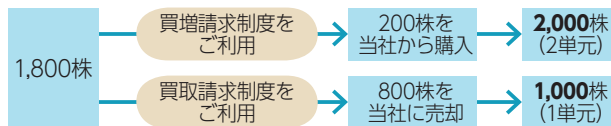
当社株式の証券市場での取引は1,000株単位となっておりますため、単元未満株式を市場で売買することはできません。

当社では、「単元未満株式買増請求制度」または「単元未満株式買取請求制度」のいずれかの制度を選択してご利用いただけますので、ご案内申し上げます。

買増請求制度 株主様がご所有の単元未満株式と合わせて単元株式(1,000株)となるように、市場価格で当社から購入することを請求できる制度です。

買取請求制度 株主様がご所有の単元未満株式を、市場価格で当社に売却することを請求できる制度です。

具体例 株主様が1,800株をご所有の場合



単元未満株式の買増・買取、住所変更等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

特別口座から一般口座への振替えについて

株券電子化に際して、証券会社等に株券を預けられていなかった株主様の株式は、三井住友信託銀行株式会社の特別口座にご記録されています。特別口座にご記録されている株式につきましては、株主様が保有株式の管理を簡便にするため、証券会社等の口座（一般口座）に振替えていただくことをお勧めいたします。

ご所有の株式が特別口座に記録されているかご不明の場合や、一般口座への振替えのお手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
(その他必要あるときは予め公告します。)

上場取引所 東京

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) TEL 0120 (782) 031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店
で行っております。

シンフォニアテクノロジーは、
(旧)神鋼電機より社名を変更いたしました。

シンフォニア テクノロジー 株式会社

〒105-8564 東京都港区芝大門1-1-30 芝NBFタワー
TEL 03 (5473) 1800
<http://www.sinfo-t.jp>

UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

